

平成31年3月吉日
駒の学び舎
世田谷区立駒沢中学校
校長 梶田 和明

平成30年度の改善方策に基づく改善結果について

1 「生徒・保護者・地域の方々からの高い評価の継続」について

- (1) 授業改善に努めた成果か、生徒アンケート「授業の内容はよくわかる」の肯定的評価は81.7%（前年比+2.9%）と向上した。しかし、保護者アンケート「子どもたちにとってわかりやすい授業が行われている」の肯定的評価は、62.8%（同-2.9%）と低くなっている。生徒が達成感をえられるように、できていることを認める指導をさらに追求していきたい。
- (2) 保護者アンケート「子どもたちに問題となる行動は少ない」の肯定的評価は45.9%（同-23.2%）と最も低く、減少率も最大であった。落ち着いて安定した学校生活を維持することが大きな課題である。望ましい行動を増やそうとする予防開発的な生活指導を推進し、自ら正しく判断して行動できる生徒を育成するための指導を全校一丸となって展開していきたい。
- (3) 生徒会活動やJRC部を中心とした地域行事への協力が定着し、地域アンケート「地域活動や行事によく協力している」の肯定的評価が95%となり、生徒の地域行事への参画が大きな評判となった。今後とも継続していきたい。

2 「保護者・地域のアンケート回収率を高める工夫」について

- (1) 前年度の関係者評価アンケート実施期間が6日間と少なかったことが回収率の低下につながったと考え、実施期間を延長することにした。しかし、保護者回収率は75.6%（前年比-4.8%）と一層下がってしまうという結果になった。学校関係者評価アンケートの周知について、1学期から意図的・計画的に進めていきたい。
- (2) 地域の方の回収率は57.1%（同+3.3%）に高めることができた。配布対象者を絞り込んだことが回収率増加につながったと考える。

3 「広報宣伝活動を充実させ、わからないという回答を減らす努力」について

- (1) 学校だよりと学校運営委員会だよりを定期的に発行することができた。特に、地域社会への情報発信として、町会の回覧板に学校だより等を載せることができたので、地域の方の回収率向上と「わからない」の回答減少につながった。
- (2) アンケート配布時に学校の教育活動を紹介する補助資料を添付できなかった。次年度の課題としたい。
- (3) 土曜授業日に道徳授業地区公開講座・若竹祭・新入生保護者説明会等の学校を公開する機会を設定し、多くの参観者があった。土曜日の活用には成果が見られたので、継続していきたい。